

FUJIEDA ROTARY CLUB  
**Weekly Bulletin**

例会:毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321  
 事務局:藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040  
 E-mail club1972@fujieda-rotary.org

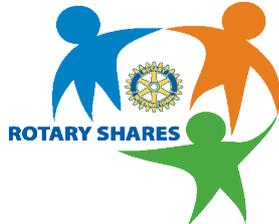


【富士山】

写真提供：青島克郎君

会長：村松 英昭 副会長：青島 克郎 幹事：青島 彰 副幹事：仲田 廣志

第1748回



<ソング> それでこそロータリー  
 <ソングリーダー> 池ノ谷 敏正君

2007-2008年度 RIテーマ  
 ロータリーは  
 分かちあいの心  
 ウィルフリッドJ.ウィルキンソン

■ 会長報告

村松 英昭君

大寒に入り大変寒い日が続いています。皆様体調を崩さないように気をつけてください。

アメリカのサブプライムローン問題で株価は全世界で下落しました。また石油価格は上昇の一途をたどっています。ガソリンは1リットルあたり155円となっています。この先どのようになりますか。

ロータリーの友1月号に「自然のすごさに学ぶ」東北大学大学院環境科学研究科教授、石田秀輝氏の2800地区、地区大会記念講演要旨が掲載されています。地球環境問題を取り上げた大変興味深い内容です。是非ご一読下さい。内容の一部をご紹介します。地球環境は鳥の目で見なければいけないということ。そのために、今日は気候の話、エネルギーの話、資源の話をしました。そういうものの見方で、新聞を読んでいただだけでも、これからずっと変わってくると思います。

そして、そういう2030年の制約因子の中で、作り上げなければならない新しい世界、それは物欲から精神欲への欲の変換です。そしてその精神欲を構成するのは、日本の「粋」という概念なのです。

さらに、粋というような概念をテクノロジーの形にしたのが、ネイチャー・テクノロジーなのです。まだまだ、実際には具体的な例は少ないけれども少しずつ見えてきています。最後に、地球環境問題は、不可避です。だからこそ、この問題に対する必要があると思います。と結んでいます。

■ 幹事報告

青島 彰君

- 新会員委員会配属について 大塚博巳君、森下敏顯君 クラブ管理運営委員会、落合慎悟君 奉仕プロジェクト委員会 テーブルメイトは大塚君C、森下君B、落合君Dとなります。
- ロータリー米山記念奨学会より功労クラブ表彰の案内が届いています。  
累計額13,101,000円  
3月頃感謝状が届きます。
- 榛南ロータリークラブよりクラブ会報が届いています
- 藤枝市サッカー協会よりジュニアユースサッカー大会の結果報告と礼状が届いています。
- 地区ガバナーより「RI 意義ある業績賞」推薦のお願いが届いています。
- ロータリー国際囲碁大会開催の案内が届いています。台湾での開催とのことです。
- 牧田ガバナーエレクトより次年度国際ロータリーテーマ「夢をかたちに Make Dream Real」に決定との案内がありました。

■ 出席報告

松葉 義之君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
20 / 38 52.63%	25 / 39 64.10%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

石垣君 北村君 杉浦君 鈴木廣君  
 仲田廣君 増田君 松葉隆君 水野君  
 村松宏君 望月俊君 飯塚君 板倉君

落合君 鈴木舜君 鈴木晶君 仲田晃君 村松徳君  
望月志君

スマイルBOX

山田 昭雄君

• 皆出席表彰ありがとうございました。

青島 克郎君

スマイル累計額 455,000円

## 会員卓話

「私の仕事（紺屋）  
をかえりみて」

山田 昭雄君



私の染色業について皆さんが知らないことをお話ししたいとおもいます。

展示品は5代目、私の親父ですがその時代のジョロ、型紙の染色道具の一部です。親父は法被、前掛け他の染め物を手掛けていました。その一部のテーブルセンターをお持ちしました。このなかで型紙は加賀友禅、京友禅も同様のものですが、当時は型を作るのは全部手彫りで一日以上掛かるものでした。大変に貴重なもので袴（かみしも）を染めた型紙です。現在は写真を起こし電気により一瞬のうち2～3分のうちに型紙を作っています。

染める方法として現在は生地に染料をそのまま染めてしまうプリント染めが主流です。

以前は防染した生地に染料液を注いで染める注染という方法がありました。友禅染めは色ごとに何枚もの型紙、色糊を使い染め上げる方法です。加賀友禅、京友禅は筒和で先に糊、染料を上から差し手描き染めするものです。

藤枝は昔、養蚕が盛んで非常に水がきれいとの



ことから紺屋が12軒もあった。各々が切磋琢磨しながら染め物を競い合ったものです。しかしながら時流に乗り遅れる者が

出始め2軒減り、3軒減りと衰退することとなり残念なことです。



このような変化のなかで紺屋としてどのようにして生き残るかいろいろ考えたものでした。仕事も一生懸命やりました。息抜きも一生懸命やりました。そんななか遊びをとおして仕事に役立つ情報がたくさんあることに気がきました。

「染めごよみ」としてカレンダー製造もこのようなことから発想でした。昭和35年当時一ドルカレンダーとして海外でも大変な好評を得ました。昭和37年静岡県輸出見本市にて斉藤県知事より感謝状を、昭和39年には東京オリンピックの全日本推奨土産品として認定され名誉総裁・桜内義雄通産大臣より感謝状をいただきました。「趣味の染めごよみ」の宣伝を考えると報道機関を利用することが安価で効果があるとのことで、商品を持ち込んだり珍しいカレンダーだとの評価を受け報道もしてもらいました。また県やロスアンジェルス、ジェトロの協力も得て海外からの注文も受け、輸出も手掛けるようになりました。

東京にも事務所を開設しましたが従業員の売上金の着服があったりと苦い思いもしました。

昭和40年頃になってプリント染め物が出回り始めるようになってきました。新しい商品として写真を染め込むものが出来ないか思案していたところ、写真を転写した染め物を見つけこれをヒントに写真転写のカレンダーを商品化しました。県から「楽掛け」と命名を受け販売しました。俳優の大川橋蔵が週間明星誌上で「来年のカレンダーはこれだ」

との見出しで掲載されうれしく思いました。海外の俳優のスー・リオンが1200本もの歌麿呂のカレンダーを買ってくれたのも良い思い出です。

その後も商品開発の意欲は強く、海辺で利用する法被「ビーチ絆纏」を商品化しました。

歌手のトリオこいさんず鎌倉のカーニバルで着

用してもらうなど好評でした。しかし東レが同様な物で安価な商品を出すなど時代が変わったことを痛感しました。

最近交通安全のための夜間反射テープを作ったところ、全国の交通安全協会から注文を受けるなど新しいものの開発に努力を惜しみません。私どもが作った商品がいかに消費者に喜んで受け入れてくれるかを常に考えることが時流に乗ることと思います。いろいろな努力をして会社を盛り立ててきましたが振り返ってみると地元で紺屋としては私ども一社になってしまいました。

紺屋には色々なたとえがあります。「紺屋殺すにゃ刃物はいらぬ雨の10日も降ればよい」とは紺屋は天気が良ければ乾きもよく、色も綺麗に上がるからです。雨が続けば染めがにじんだりして仕事にはなりません。「紺屋の白袴（しろはかま）」客の要望を聞いて染めるだけで紺屋の中には色に無頓着な者が多いことからこんな言われ方もします。「紺屋あさって」紺屋が客の注文を受けるとき出来上がりを聞かれて「あさってには」と答えることからこのように言われます。次の日に染め、その翌日に乾かし納めることから最短の出来上がりのことをこのように言います。大歌舞伎「紺屋高尾」は紺屋の職人さんが花魁の高尾との色恋沙汰を題材として演じられたようです。

会社経営も息子の時代になり自分自身の時間は余るほどあります、このまま何もしないではいかんと思ひ写真道楽を本格的に始めることとしました。自然を題材とした写真を数点展示させてもらいましたが写真道楽は自身の活力が湧きあがる思いがします。皆さんにいつもありがとうの思いを込めて人生を楽しみたいと思ひます。



(担当／青島克)